

安全センター

▼▼一二月の定例交流会▲▲

「人間関係からみた職場の現実」

一月二六日、阪神医生協診療所にて「人間関係からみた職場の現実」をテーマとして定例交流会が開かれ、一〇名の参加がありました。

労働や労働安全衛生に取組む上で、最も基盤になるのが人間関係です。信頼し合える仲間と進める作業はお互いに分け合い、助け合い、と気を使いながら、理解しながら進めることができます。しかし嫌いな(信頼できない)人とはどうでしょうか。完全に仕事を分担したり、極力口を聞かなくてよいような環境を作ろうとしたら…。これでは上手くいくはずがありません。

今回の交流会では各職場における人間関係の悪化原因についての具体的な事例を持ち寄り、(但し個人特定ができないような工夫をし、人権意識を持って)発表するという取り組みでした。

2015.11.26 安全センター定例交流会 労組名 (阪神医療生活協同組合) 「人間関係からみた職場の現実」

質問	回答
1 パワハラとか人間関係の悪化で悩んでいる職場はありますか。労働組合に相談がありましたか。苦情処理委員会は動いていますか。	
2 1である場合、それぞれどのようなことがきっかけで人間関係が悪くなりましたか。	
3 1である場合、だれが中心になってどのような対応策を取りましたか。取られた場合、その内容を教えてください。(退職のケースも含めて)	
4 人間関係の悪化とまではいかないが、対人関係で悩んでいることがあれば教えてください。	

★定例交流会当日に知りたい・聞きたい内容があれば予め安全センターへご連絡 (tel/fax 06-4950-6653) 頂けましたら可能な限り調べておきます。

労働組合は頼られていますか？

交流会は右の表の共通質問を各労組に問い、回答書を持ち寄り進めました。①パワハラとか人間関係の悪化で悩んでいる職場はありますか。

労働組合に相談がありましたか。苦情処理委員会は動いていますか。②①である場合、それぞれどのようなことがきっかけで人間関係が悪くなりましたか。③①である場合、だれが中心になってどのような対策を取りましたか。取られた場合、その内

容を教えてください(退職のケースも含めて)④人間関係の悪化とまではいかないが、対人関係で悩んでいることがあれば教えてください。

提出のあった六つの組合中三つの組合からは人間関係の悪化で悩んでいる労働者は「現状無し(そのような報告は会社も組合も聞いていない)」という内容でした。「有り」と答えた三つの組合の内二つは労働組合に相談があったということです。

労働者からの相談の多さは労働組合が信頼されているかどうかの指標になります。

人間関係悪化のきっかけについては、上司の主張が強い・ついていけない、声が大きく言い方がきつい、いじめ、不潔で回りに迷惑をかける、などが出されました。その職場の責任者・責任者の上司などの職場転換や教育の実施を行ったということでも解決に至ることもあれば、退職するケースもあるということでも非常に悩ましい問題です。ただ労働組合が相談、対策に至るまで取組んだという労働組合の活躍が確認できる報告もありました。

その他、考え方や仕事のやり方の違い、派閥を作る、機嫌の良し悪しが態度に出る、上司が部下よりも年下、有給休暇取得のバランス、礼儀作法やマナーの欠如、挨拶をしない、協調性がなく自己主義など、表面化していないが人間関係の悪化につながるかもしれない事例が多々出され

活発な交流となりました。

いろんな形の

コミュニケーションを

人それぞれには個性があり、違いがあるのが当然です。そのような中でどう職場で信頼関係を築いていくのか。

昼休みにキャッチボールをする、野球やソフトボールのチームで一緒に活動する、課をまたいで飲み会をしている、年一度の慰労会があり会社の補助がある、社員旅行を企画している、など仕事外での活動を活発に行っている職場もあります。仲の悪い人同士の間に入って緩衝材(クッション)の役割を果たす人が重要だという意見も出されました。

パワーハラスメントの類型は次の様に6類型が示されています。

- 身体的な攻撃 (暴行・傷害)
- 精神的な攻撃 (脅迫・暴言など)
- 人間関係からの切り離し (隔離・仲間外し・無視)
- 過大な要求 (業務上明らかに不要なことや実現不可能なことの強制、仕事上の妨害)
- 過小な要求 (業務上の必要性が薄く、能力や経験とかけ離れた程度の低い仕事を命じる。また、仕事を与えない)
- 個への侵害 (私的なことに過度に立ち入る)



1,890円 (当センター割引あり)

福島原発事故で 白血病労災認定

著で、子ザルでは下北が平均一マイクロリットル当たり一万四八六〇個だったのに、福島ではその半分以下の六八二三個だったということです。しかもセシウム濃度が高いほど白血球数は低下しています。

もうひとつ。帰還困難区域とされていた大熊町、浪江町の三方所と、北茨城市でそれぞれ一―二〇二本のモミの木を調査すると、「放射線量が最も高い大熊町の調査地（毎時三三・九マイクロシーベルト）では九七・六パーセントで、幹の先端の『主幹』と呼ばれる芽がなかった。主幹がないと生育が止まる」（毎日）北茨城市（毎時〇・一三マイクロシーベルト）ではそれが五・八%にとどまったというものです。針葉樹は放射線の影響を受けやすいことが知られているとも書かれています。

海側遮水壁が傾いていた

最近ですが一〇月二六日の神戸新聞に「福島原発 海側遮水壁が完成」という記事が出ていました。放射能汚染の地下水が海へ染み出るのを総延長七八〇メートルの遮水壁の完成で食い止めるということです。

それから一カ月後、同じ新聞にまったく同じ写真が載っていました。その記事の内容は、完成した遮水壁全体が地下水圧の影響で海側に最大二〇センチ傾いているというものでした。「傾きの影響で周辺の敷地の舗装に計約五〇〇坪のひび割れ（最大

幅一センチ）が発生しており、東電は雨水が流入して地下水位がさらに上昇するのを防ぐため、樹脂を吹き付けてひび割れをふさぐ応急対策も進めている」とあります。それでは一か月前の記事は何だったのか？東電は本当にどこまで真実を公表しているのかという深刻な不安がよぎります。

廃炉作業の労働者

片時も忘れず

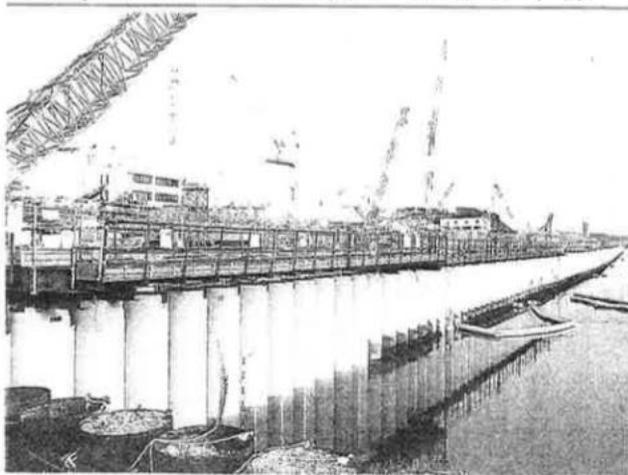
東京電力福島第一原発事故の作業で急性骨髄性白血病を発症した四一歳の労働者が一〇月に労災認定されました。北九州に戻った昨年一月の健康診断で見つかりました。この一年余での被曝線量は一五・七ミリシーベルト。年五ミリシーベルト以上の白血病の労災認定基準を上回っていました。

原発事故から今年八月末までイチフクで働いた四万五〇〇〇人のうち二万一〇〇〇人が累積被曝五ミをを超えている（東電調）というのですから、

福島第一原発 海側遮水壁 水圧で傾く

東京電力福島第一原発の護岸から汚染地下水が染み出るのを防ぐ「海側遮水壁」が、地下水圧の影響で全体的に傾斜していることが26日、分かった。傾斜は海側に最大20センチ。東電は傾きを抑えるため、遮水壁の周囲に鋼材を補強する対策を進めている。

傾斜は遮水壁建設中の昨年1月ごろから発生。東電は「遮水壁の



東京電力福島第一原発の海側遮水壁＝9月（同社提供）

2015. 11. 26 神戸新聞
（この1カ月前に同じ写真で
完成の記事）

性能に影響はない」として、25日に福島県郡山市で開かれた廃炉・汚染水対策に関する現地調査会議で説明するまで状況を公表していなかった。

情けなくなりします。福島の一一般住民にもこの被曝五ミ以上（事故後四カ月）が九五〇人いるということですが、一般住民にはもちろん労災補償はありません。一般住民以前に自衛隊、消防、警察官はもつと被曝しているはず。敷地内で必死に放水作業を行った消防隊員の最高値は二九・八ミリシーベルトと発表されています。

ます。札幌市の重機オペレーターは第一原発での四カ月の事故収束作業で、原発労働者の年間限度五〇ミを超える五六ミシーベルトの被曝をしました。四カ月仕事をしたら一〇月末に仕事をやめ、翌二二年六月に膀胱がん、一三年に入って胃がん、結腸がんを発症しました。重機で片づけられないうがれきを下腹で支えて持ち運んだこの五七歳の労働者は、福島富岡労働基署に労災申請しましたが不支給決定。この九月に東電と元請け大成建設とその下請けを相手に札幌地裁へ提訴しました。（『サンデー毎日』）すでに学会では一〇ミシーベルトの被曝をするのがんの発症率が平均三%上昇するという報告が出されています。五〇代の半ばで三つのがんを同時発症したのです。再稼働に熱心な人たちはこの労働者たちの代わりに原発事故現場へ入る決意はあるのでしょうか。

福島第一原発の一〇三号機のプールにはまだ一五七三体の使用済み燃料が残り、格納容器内には一四九六体分の燃料の多くが溶け出した危機的状態が残っているのです。毎日続けられている約七〇〇〇人の労働者による放射線下の廃炉作業によって、かろうじて原子炉が冷温停止状態に保たれ、福島と日本の安全が守られているのが現実です。このことを同じ労働者として、片時も忘れてはいけなと思います。